

LA VIDA EN MÉXICO~

～インディヘナの授業と映画『ROMA』～

TAKU MINAGAWA Vol.6

ロインディヘナの授業

私が通う学校ではメキシコの文化や歴史を学ぶクラスを受講できますが、今期ではメキシコのインディヘナ(先住民)の授業を取りました。インディヘナとはスペイン人の到来・制服以前(1521年)よりメキシコで生活していた人々の事を指しますが、現在ではメキシコ人口の15%がインディヘナ人口と言われています。メキシコ国民の半数以上(6-7割)はメスティーソと呼ばれるスペイン人とインディヘナの混血であり、白人の割合は15%程度になります。メキシコの文化・歴史を考える上で彼らを取り巻く現状や抱える問題は重要な要素であるとメキシコに来てから感じる事が多く、今月号のレポートとしてまとめたいと思います。



[12月に旅行したチアパスのインディヘナの人々]

ロインディヘナの言語と文化

メキシコの公用語はスペイン語ですが、インディヘナの村々では固有の言語が話されており、国全体では62の言語があるとされています。言語の数はインディヘナの部族を示しており、私たち日本人が良く耳にするマヤもインディヘナの1つです。スペイン人到来時には170もの言語が話されていたと言われており、現在その数は急速に少なくなっています。またメキシコ各地で

はインディヘナに由来する踊りや民族衣装があり、それぞれの文化を知ることができます。

ロメキシコシティのインディヘナ

私が生活するメキシコシティ(以下シティ)にもインディヘナがおり、シティに以前より住んでいた人々、出稼ぎや生活の為に周辺地域から来ているインディヘナなど、多種多様な人々があります。シティの路上で良く見かける物売りの人々の多くはインディヘナに由来する人々です。



[路上で物売りの人々]

彼らが抱える問題の多くは貧困です。メキシコは貧富の差が大きく、インディヘナの人々は貧困層に属します。彼らの仕事は路上での物売りや、女性においては各家庭での家政婦や掃除婦、服や民芸品などの製作、男性は建設現場や市場などでの荷運びなどを主としていますが、その大多数が低い賃金収入で働いています。

彼らの住環境もひどく、一つの部屋に5-10人で暮らしている例もあり、場合によっては市場の倉庫や道で生活している人々もいます。

また、シティにおいてもインディヘナの子供の就学率は3割程度と非常に低い割合であり、路上で物売りや靴磨きをする小さな子供たちを見かけるたびに彼らを取り巻く現状の厳しさを感じます。

LA VIDA EN MÉXICO~

～インディヘナの授業と映画『ROMA』～

TAKU MINAGAWA Vol.6

□インディヘナのインタビュー

授業の一環で、実際にインディヘナの方をお呼びし、話を聞いたのは貴重な経験でした。



〔これまでの人生を語るインディヘナの女性〕

インタビューしたのはマサフアと呼ばれるインディヘナの女性で、生まれ故郷を離れて現在はシティで生活されている方です。インディヘナの村々での生活環境は厳しく、10年前にやっと村に水が来たという実情で、それでも1週間に1回1時間だけの給水、当然生活に足りるものには無いので、片道3時間をかけて川へ水汲みに行くのが生活の日常というお話でした。農業に従事している人々が多く、食事はトルティージャが主、肉を食べる機会は年に数回と言うほど、シティとの生活とは大きく異なる環境に驚きました。

しかし、村々には豊かな自然と温かい人々の繋がりがあり、「生活は大変だけれども、インディヘナとして生きていることは誇りです」と語られていたのは非常に印象的でした。



〔村の女性たちが作る民芸品や服飾品〕

□差別の問題

メキシコでインディヘナとして生きる上で、多くの差別が存在しているの非常に悲しいことです。仕事は勿論、教育の機会の制限や、中には病院などの医療サービスを受けられないこともあり、彼らに向けられる視線は時に冷たいものがあります。差別を避け、そして生活の向上のために、インディヘナの言語を話すことや子供に伝えることをやめ、また伝統衣装を着ないなど、固有の文化から離れざるを得ないインディヘナの人々がいるのは実情であり、これからのメキシコの文化を考える上で大きな課題であると言えます。

□映画『ROMA/ローマ』

今年の2月に行われたアカデミー賞の3部門(監督賞・外国語映画賞・撮影賞)を受賞したのは『ROMA/ローマ』というメキシコの映画でした。70年代のメキシコシティで住み込み家政婦として働くインディヘナ女性と人々の絆を描いた映画であり、非常に心を打たれる作品です。映画の中では主人公がインディヘナの言語の一つであるミシュテカ語を話すシーンもあり、彼らの生活を知ることができます。『ROMA』は元がインターネットでの映画配信サービス「Netflix」での作品なので、気軽に観ることができるお勧め作品です。

